コラム 人生課長の独り言~一歩進めるためのヒント~

誰が、褒める(認める)か?

一般的に、10歳くらいまでの児童は、「大人からの称揚が効果的」とされています。特に、親からの称揚は効果が絶大であり、学校で担任が褒めるだけでなく、家に帰ってからも親が褒めるという「連携プレイ」が重要だと言えるでしょう。思春期以降になると、そういった大人からの褒め言葉を素直に受け取ることが難しくなる時期でもあり、「仲間からの称揚が効果的」と言われています。授業の中で児童生徒同士の「相互承認」の場面をつくったり、キャリアパスポートなどの振り返りを見せ合うことで、互いの頑張りや成長を実感し、認め合う仕掛けをしたりすることも有効でしょう(決して、教師は褒め(認め)なくても良いということではありません)。

また、どのような言葉で「褒める(認める」か?も大切だと思います。先生方も上司に褒められた時、その褒め言葉では、なんとなくピンとこないなんて経験はありませんか?「そこじゃないんだけどなぁ…」みたいな。

「ほめる、認める、励ます」言葉

ありがとう 明るいね 安心だね 熱いね アイディアマンだね いいね いける いけてる いいぞ 癒されるね 一生懸命だね 意志が強 いね 一緒に頑張ろうね うん うれしいよ うまいね 運がいいね 美しいね ウルトラマンだ 笑顔がいいね エクセレント! えらいね 英雄だ ええよ オッケー 応援してるよ おお! 大物だ おしゃれだね 落ち着きがあるね お手柄だ お見事! 大人だね おめでとう おもしろい 思いやりが あるね お疲れ様 お兄ちゃんになったね お姉ちゃんになったね かっこいいね かわいいね 賢いね 活気があるね 我慢強いね がんばるね 感動した! 感心 するね 勘がいいね 完璧だ! がんばろう ガッツがあるね 気がきくね 気持ちいいね 気合い入ってるね 記憶力がいいね 協力できたね 行儀がいいね き かららしておね きれいだね 金メダル! 詳しいね 君ならできる グッド! グッショブ! グッドアイディ ! クールだな 健康がだね 法所力があるね 元実 だね 結構やるね 行動力あるね 豪快だね 根気があるね 根性があるね 心が広いね ご苦労様 好春心旺盛だね 細やかだね コツコツがんばるね さすが! 最高だね さわやかだね 参考になるね 最適だね 最後まで頑張ろうね 最後まで頑張ったね しっかりしているね 詩人だね 幸せだね 自慢だよ 実力だね 自 慢できるね 集中力があるね 真剣だね 趣味が良いね 正直だね 辛格強いね 信頼できるね 親切だね 心配ないね 姿勢が良いね 秀才だね 実に面白い 仕 事人だね 瞬発力があるね 奏敵だね すごいね 素直だね すばらしい するどいね スーパーマンだね 隙がないね 正確だね 成長したね 責任感あるね 積極 的だね 繊細だね センスあるね 正解! 絶好調だね 想像力があるね 創造力があるね 存在感があるね その通り! 助かるよ たくましいね 大胆だね 頼れ るね タフだね 大丈夫だよ 楽しいね 大正解! 大成功 力があるね 調子がいいね ちゃんとしているね チャンピオンだね チャンスメーカーだね ついてる ね ついにやったね ついにできたね 天才! 丁寧だね でかした! 天下一品! 天使みたい テキバキしてるね 友達思いだね 得したね 努力したね 堂々と しているね 努力家だね ナイス! なるほど なかなかだね 似合うね 忍耐力あるね 忍者みたいだ 人気者だね 抜きん出てるね 熱心だね 粘るね 粘り強い ね 伸びてきたね のってるね ノリがいいね 働き者だね 華があるね 発想が良いね 早いね 涞いね 判断力があるね 反応が良いね ハキハキしてるね ハー ト庁強いね はなまる! ハッスルしてるね 光ラてるね 人がいいね 評判だよ 100点! 品があるね ヒーローだ ファイトがあるね フットワークが軽いね フラス思考だね 太っ腹だね 雰囲気がいいね 返事がいいね 態強家だね ベリーグッド ほっとするね ほめ上手だね 本気だね ホームラン! ポイントがわかっ てるね ポシティブだね ほれぼれするね 真面目だね まいった! 前向きだね マメだね 満点! マックスだね 見事! みんな思いだね 見習いたいね ミラ クルだね ムードメーカーだね 無駄がないね 夢中だね メンタルが強いね 面倒見がいいね 目立つね 目ヂカラがあるね モチベーションが高いね 問題なし! 物わかりがいいね 目標が高いね ものすごいね もう1回見たいね やったね やるねえ やるじゃん 野性的なカンだね 優しいね やる気だね やりぬいたね 優秀だ 優勝! 勇気があるね 愉快だね ユニークだね 夢があるね 優雅だね よくやった! よろしい! よく覚えているね よし! よく考えたね よくがんば ったね よく見たね 要領がいいね 読みが深いね 楽勝だね ラッキーだね 立派だね 立派になったね 理想的だね リーダーシップがあるね 理解が早いね 利 口だね リッチだね 凛としてるね りりしいね ルンルン気分だね 礼儀正しいね 冷静だね レスポンスがいいね ロマンがあるね ワイルドだね ワンダフル!

☆授業改革推進 津山チームが考えた 「ほめる、認める、励ます」言葉 250 をベースに作成したものです。 ☆子どもたちを「ほめる、認める、励ます」言葉はまだまだあると思います。 みなさんで追加してくださいね。

褒め言葉などを出し合った例

そういう意味では、いかにバリエーション豊かな「褒め(認め)言葉」を持っているか?も大切ですね。なんでも「いいね!」で済ます世の中だからこそ、「どんな褒め言葉があるだろう?」と職員室の話題にし、教師が率先して使ってみるのも良いかもしれません。職員同士が互いに褒め(認め)合うと同僚性も高まりますしね。(髙橋)

人権教育・生徒指導課のホームページもご覧ください。 https://www.pref.okayama.jp/soshiki/350/



Vol.13

発行日 令和7年10月

岡山県教育庁 人権教育·生徒指導課

生徒指導 Leaflet @ OKAYAMA

誰一人取り残されない岡山県の教育に向けて

寝める? それとも認める?

大人であっても子どもであっても、人は誰しも褒められると嬉しいもの。褒める 行為には様々な効果があると言われていますが、なかなか難しいと感じておられる 方も少なくないのではないでしょうか?

今回は、教師が心がけたい「褒める」行為のポイントと、これからの生徒指導を 考える際に大切にしたい「認める」行為について考えてみます。

岡山県教育庁 人権教育 • 生徒指導課

〒770-8570 岡山県岡山市北区内山下2-4-6 Tel:086-226-7589 Fax:086-224-2134

Q. 子どもをしっかり褒めたいのですが、どうしても特定の子に限られてしまいます。

A. 褒めることの効果は次のようなものが考えられます。

- ○良い行動の習慣化… 褒められることで、人は良い行動を継続・強 化しようとします。これにより、良い行動が習慣化されます。
- ○モチベーション向上 …褒められると、脳の報酬系が活性化し、 ドーパミンが放出されて快感を感じます。これにより、さらに快感を得ようとやる気が向上し、行動を繰り返すようになります。
- ○自己肯定感向上 …褒められることで、自分が認められていると感じ、自信を持って物事に取り組めるようになります。
- ○円滑な人間関係構築… 相手を褒めることは好意を示す行為であり、好意の返報性(ミラーリング効果)により、褒められた相手も好意をもち、良好な人間関係や雰囲気作りに繋がります。
- ○パフォーマンス向上 …ポジティブなフィードバック(褒めること)が多いほど、学習の質や学習以外の望ましい行動といったパフォーマンスが高まります。
- ○褒める側にも良い影響 …人を褒めることは、褒める人自身の気持ちを安定させたり、人に対する気持ちを変えたりする効果があると言われています。また、褒める行為は、良い評価という形で自分に返ってくることもあります。

ただし、褒め方によっては逆効果になることもあるため、具体的な内容を褒める、行動やプロセスを褒める、感謝の気持ちを伝えるなど、効果的な褒め方を意識することが重要です。

なぜ、「褒める」ことが難しいのか?

「褒める」側の視点はどうか?

「褒める」ことは

効果が高い

上に示した通り、「褒める」行為はメリットだらけなのに、実際にはなかなか難しいと感じておられる方も少なくないのではと思います(自分の子どもなど身内となれば尚更です)。

なぜ、難しいのでしょう?

Vol.13 褒める?それとも認める?

様々な理由があると思われますが、一つには、<u>そもそも「褒め</u>る」行為は、その子(人)の「良いところ」を探す行為であるということにあるのではないでしょうか?

良いところがたくさんある子は、たくさん褒めることができますが、なかなか良いところが見付けにくい子がいることも事実です。結果、みんな褒めたいと思っているのに、特定の子ばかりを褒め、逆に、そうでない子はいつも「注意」ばかりということになってしまうのかもしれません。

また、教師が見付けている(見付けようとする)「良いところ」が、教師にとっての「(都合の)良いところ」であったり、教師側の「こうあるべき」という思い(理想)が高すぎると、<u>その子本来の良さに、なかなか気付きにくい</u>ということもあるかもしれません。

『提要』のダウンロード はコチラ

どんな子も「認める」ことはできる

「認める」という方法も

「褒める」ことの難しさを自覚した上で、より効果的な「褒め 方」を考えることが大切なのですが、「認める」という考え方も 重要だと思います。

最大の違いは、「認める」行為は、その子の「弱点」や「失敗」も対象となるということでしょう。「失敗」を認め、その価値をプラスに転換してくれる教師のもとでは、子ども達はいろいろなことに、主体的にチャレンジしやすくなります。「良さ」だけでなく「弱点」も含めて、いろいろな人がクラスに存在していることを知ることは、多様性を認め合う学級(学校)の基盤となり、いじめが起きにくい集団づくりにつながるかもしれません。

以前、紹介した<u>「心理的安全性」の基盤づくりが、「認める」</u> ということなのかもしれません。

- POINT

- ① 効果と難しさの双方を理解して「褒める」
- ②「褒める」だけでなく、「認める」という視点も持つ